

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト（大槌高校魅力化構想）

事業背景

①高校が存置する大槌町は、東日本大震災津波によって壊滅的な被害を受け、**復興を担うリーダーの育成が急務(震災復興)**

②県内最大の人口減少率であり、地域貢献意欲が高い、地域を支える人材の育成が急務である(**地域を支えるリーダーの育成**)

魅力化
コンセプト

大海を航る、大槌(ハンマー)を持とう

目指す
人物像

自立

意志がある
課題をジブンゴトにし、主体的に探究・行動が出来る人

協働

仲間とともにある
他の価値観や文化等の多様性を受容し違いを越えて共創できる人

創造

逆境から創り出す
予測できない未来や想定外など逆境においても新しい価値を創り出す人

(町設置)
大槌高校魅力
化構想会議

魅力化推進員派遣

カリキュラム開発専門家 1名
地域協働学習支援員 2名

コンソーシアム（管理機関：岩手県教育委員会）



[校内体制] 教員全員が所属するワーキンググループを設置。コンソーシアムと連動して魅力化を推進

令和元年度目標と取り組み

①コンソーシアムの設置

○コンソーシアムが主導となりビジョンを策定

- ・大槌高校魅力化構想策定
- ・地域/教員/生徒が参加する魅力化検討会議の開催

○教育課程の具体的な連携

- ・総合的な探究の時間の中高連携
- ・研究機関(東京大学)との連携による地域資源の海を題材とした探究学習

②学校設定科目「三陸みらい探究」の設定

○「SIMおおつち2030」

- ・町行政と連携しヒアリングに行くなど町の事業題材としたまちづくり学習

○「三陸復興ラーニングジャーニー」

- ・三陸の他地域の復興への取り組みを視察することで自身のテーマを探る契機に

1年生(2単位)

地域を舞台に自分の興味関心を知る

2年生(2単位)

身近な自分のテーマを探究する(マイプロの実践)

3年生(1単位)

生き方・未来に地域を舞台とした探究をつなげる

次年度に向けて

ワーキンググループを設置し、コンソーシアムと議論を重ね、魅力化を推進

○カリキュラム開発

- ・地域資源を活用したカリキュラムの検討(教科を中心とした地域を題材とした学校設定科目の設置)

○生活全般検討

- ・校則について生徒が主体となり再検討(地域の意見を反映したルールメイキング)
- ・地域が支える部活動のあり方の検討

○三陸みらい探究の深化と社会教育との連携

- ・3年間を見通した三陸みらい探究のカリキュラム検討と、ルーブリック活用した評価の検討
- ・総合探究を軸とした社会教育(カタリバや社会教育施設との連携協働)